

## 5: 乳頭腫(イボ)に対するETB乳剤の効果

畜産フィールド科学センター 技術職員 堀田 はるか

メールアドレス haruka@obihiro.ac.jp

## 研究の概要

## 【目的】

乳頭腫は、牛がパピローマウイルスに感染することによって引き起こされ、さらに吸血昆虫などがウイルスを媒介することによって他の牛にも感染が拡大してしまう。乳頭腫があると、搾乳中にエアが入ることによって乳房炎の原因になり、ひどい場合は搾乳そのものができなくなってしまう。そこで、ウイルスの媒介を防ぐために、害虫の駆除ならびに忌避効果がある ETB 乳剤を乳頭に塗布し、どれくらいの濃度で何日おきに塗布すれば効果があるかを調べた。

## 【方法】

試験期間は 2010 年 8 月 2～8 日で、昼夜放牧中の未経産妊娠牛 8 頭を対象とした。使用薬剤は ETB 乳剤と、対照区としてディート 100%の強力な害虫忌避剤を用い、表のような処理区を設定した。そして牛全頭の乳頭の写真を右・左・後の 3 方向から毎日撮影し、写っている口傷数をカウントした。

表:乳頭への薬剤の塗布方法

	希釈倍率	塗布頻度	頭数
ETB乳剤	100倍 と 200倍	2日に1回	1頭ずつ 計6回
		3日に1回	
		4日に1回	

## 【結果】

各処理区における8月2日と8日の口傷数をグラフに示した。2日に1回の200倍希釈、3日に1回の100倍、200倍希釈で咬傷数が減少した。逆に2日に1回の100倍希釈では増加したが、これは実験開始日の咬傷数が少なかったために、明瞭な結果が得られなかった可能性が考えられる。また、4日に1回では100倍、200倍希釈ともにあまり効果がなかったことがうかがえた。以上のことから、200倍希釈で3日に1回塗布すれば効果が得られると考えられる。

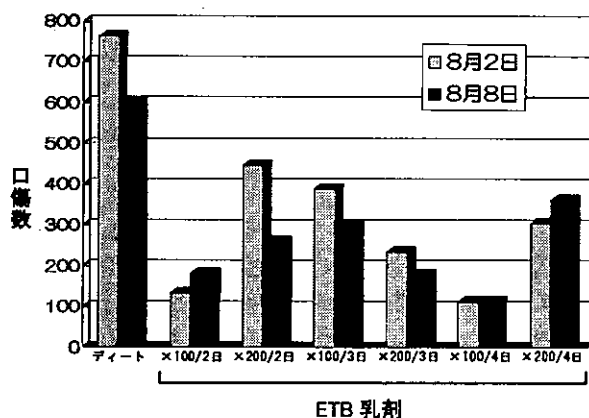


図:各処理区における口傷数